

英語活動における「話すこと」の効果に関する実践的事例研究 —どのくらい児童は既習した言語項目を表現できるか—

石 濱 博 之*

(平成24年9月28日受付；平成24年11月7日受理)

要 旨

本稿は、児童の「話すこと」に関する効果を提示したものである。平成17年度、「話すこと」の観点から新潟県N小学校での授業実践を検討したものである。そのN小学校の年間活動計画の中で取り扱った言語項目をどのくらい表現できるのかについて面接法を用いて実施した。「内容の適切さ」、「反応の速さ」、及び児童の「自己評価」の観点から、その結果を考察した。

児童が英語を話したいという欲求を満たすためには、「内容の適切さ」と「反応の速さ」を意識しながら指導する。そして、児童に楽しく繰り返し活動をさせれば、児童が望んでいる英語を使って話すことができるようになるであろう。外国語活動で「話すこと」の重要なことの一つは、児童に「自信を持たせること」である。

KEY WORDS

English Activities	英語活動
Speaking	話すこと
Accuracy	内容の適切さ
Fluency	流暢さ
Self Evaluation	自己評価

1. はじめに

2008（平成20）年3月に新学習指導要領が告示され、小学校高学年（5年生、6年生）で外国語活動が必修化された。これによって、外国語活動が第5学年で35時間、第6学年で35時間の年間授業時間数に定められた。小学校の外国語活動は、2011（平成23）年度から完全実施となった。

その告示された小学校新学習指導要領の「外国語活動」は、(1)目標、(2)内容、(3)指導計画の作成と内容の取扱い、という3つの項目で構成されている。外国語活動の目標を次のように示している。

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

外国語活動の目標は、外国語を通じて、コミュニケーション能力の素地を養うものである。そして、次の3つの柱から構成されている。

- ① 外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。
- ② 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- ③ 外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

「外国語を通じて」は「外国語によるコミュニケーション活動」のことであり、3つの柱がバランスよく相補う形でコミュニケーション能力の素地を作っていく。そのコミュニケーション能力の素地が中学校・高等学校等における外国語科の学習の土台となる。

外国語活動の内容は、学年ごとに示されているのではなく、2年間を通じて指導される。各々の学校が、児童の実態に応じて学年ごとの指導内容を設定することが求められている。そして、「コミュニケーションに関する事項」と

「言語や文化に関する事項」に分けて示されている。

本稿では、「③ 外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる」ことの中で「話すこと」に焦点をあてて、児童がどのくらい既習した言語項目を言えたかを検討する。外国語活動を実施する際、児童は、「英語で習ったことを言ってみよう。英語を話したい。」と述べる場合が多い。そこで、児童の「話すこと」の効果について検討することには意義がある。ここでは、「総合的な学習の時間」における英語活動で実施した「話すこと」の調査結果を基にして、外国語活動における「話すこと」を促進する方策を提案する。

2. 調査の背景（平成17年からのN小学校「英語活動」の実践）

新潟県糸魚川市立N小学校では、平成17年度から「総合的な学習の時間」に英語活動を導入した。その英語活動の実施時間は年間35時間を取り、すべての学年で英語活動を推進した。N小学校の英語活動の目標は、その活動をとおして外国の言語や文化に慣れ親しみ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、「聞くこと」や「話すこと」の実践的コミュニケーション能力の基礎を養うこと、とした。具体的に、1) 言葉や文化についての関心・理解・態度の育成…言葉やその背景にある文化などに興味を持ち理解すること、2) コミュニケーションへの関心・意欲・態度の育成…コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとすること、3) コミュニケーション能力…簡単な英語を聞いたり話したりして、互いの気持ちを伝え合うこと、とした。低学年・中学年・高学年の活動テーマは、表1のとおりである。

表1 低・中・高学年の活動計画のテーマ

全学期	
学年	活動テーマ
低学年	歌や遊びなどとおして楽しく活動する
中学年	簡単な英語で聞いたり話したりするやりとりを楽しむ
高学年	簡単な英語を使って、自分の考えなどを伝え合うことを楽しむ

表2 高学年の話題

学期	話題
1学期	あいさつ、出会いのあいさつ、出身、住んでいるところ、学校名・学年
2学期	数（基数・序数）、日付（月）、誕生日、教科、時間割
3学期	将来の夢（職業）、自己紹介（名前、学校名、学年、誕生日、住んでいるところ、好きな教科、職業）

平成17年度の高学年の年間活動計画は、児童にとって身近な話題（表2）を考えながら言語材料をスパイラルに配列した。1年間の完結として3学期に、児童に簡単な英語で自分のことを表現させたかったからである。例えば、主な話題は「糸魚川市に住んでいます、N小学校に通っています」、「学年をいってみよう」、「誕生日をいってみよう」、「時間割を見てみよう」、及び「将来の夢をいってみよう」であった。そこで、年間活動計画（Appendix I）を編成する際、既習したことと関連させながら、4時間、あるいは5時間構成で1つの単元を構成した。例えば、「大きな数と序数をいってみよう」から「日付をいってみよう、誕生日をいってみよう」というように関連した言語材料を積み上げた。この理由は、児童に十分にコミュニケーションをしようとする態度を身につけさせようとすると共に、「自分の言いたいこと」を自己表現させたい体験活動を児童に提供できると考えたからである。更に、言語材料に関しても、年間活動計画（カリキュラム）の言語材料がどのように積み上げられたかについて、同じような文ないし文型に基づいて図式化した（石濱・藤田，2008）。平成17年度の中学年の年間活動計画も同様に、児童に関連する話題を取り上げた（表3）。

表3 中学年の話題

学期	話題
1学期	あいさつ, 天気, 曜日, 数
2学期	時刻, 色, 果物, スポーツ
3学期	スポーツ, 既習事項の復習

次に、授業展開の枠組みをある程度「固定化」した。影浦（2007）は、「授業の流れの固定化」を薦め、「雰囲気づくり、楽しい活動、まとめ」と提案し、3つの固定化の利点を述べている。その授業の固定化の利点は、第1に、教員が1回の授業ごとに枠組みを考えなくてもよい、2. 児童にとっては、授業の枠組みが固定化されていればとまどうことなく英語活動の学習内容に集中できる、3. ALTにとっては、授業の枠組みが固定化されれば、学級担任と協力して英語活動を推進しやすくなる、としている。

授業の固定化を考慮する際、筆者は、子どもが「(内容が) わかれば、楽しく」主体的に活動すると考えている。その考え方の基で、一貫して「① あいさつ → ② 復習 → ③ モデルの提示 → ④ オーラル・ワーク → ⑤ グループ・ワーク (ペア・ワーク) → ⑥ ゲームの活動 → ⑦ 歌の活動 → ⑧ 発表 → ⑨ 別れの言葉」というような授業枠組みをとおした。③の「モデルの提示」では、児童に類推をさせながら本時のねらいを意識させた。即ち、児童に「言語の気づき」をさせた。そして、言語材料の反復(繰り返し)練習を多く取り入れながら、音声を中心としてねらいとする話題や言語材料の定着を図ろうとした(石濱・藤田, 2008)。

3. 参考にした先行研究等

児童の「話すこと」に関して、松川（1997）は、「興味・関心・態度面での成果はもちろん大切ですが、一番知りたいのは英語力そのものの評価ではないでしょうか。小学校から英語を学んできた生徒と中学校から学んだ生徒との英語力の違いは一体どこにあるのでしょうか。」と問いかけて、2年間生津小学校で英語を教えられた生徒とそうでない生徒との個人面接調査(スピーキング・テスト)を実施し、問に対する反応の速さ、答えた内容の適切さ、話しぶりを評価した。

その結果、「全体的に反応の速さについても、答えの適切さについても、生津小学校出身の生徒の方がそれ以外の生徒を上まわっていることがわかります。」としている。

次に、石濱・西田（2006）は、N小学校での「聞くこと」に関して、積み上げてカリキュラムを編成し、そのカリキュラムに基づいて英語活動の授業を年間35時間ぐらい実施すれば、児童の聴解力の向上が期待できるであろう、とした。特に、授業で取り上げた言語項目は向上したとした。

そのN小学校での「聞くこと」の継続した研究として「話すこと」に焦点をあてた実践研究を実施した。具体的に「話すこと」に関しては、面接法を取り入れて問答で既習した言語項目(特に、言語材料)をどのぐらい表現できたかについて調査を実施した。

4. 調査の目的と内容

4.1 調査の目的

調査の目的は、35時間の英語活動を経験した児童が既習の言語項目を表現できるようになったか(言うことができたようになったか)について分析し検討することにある。授業で取り上げた言語項目に関して、内容の適切さ・反応の速さと指導の関係、及び児童による自己評価との観点から検討することにある。

4.2 調査の内容

(1) 設問

平成17年度に実施したカリキュラムに基づいた言語項目のみを取り扱った。

表4は、高学年に対する設問である。表5は、中学年に対する設問である。1年間で実施した基本的な問答を取り上げている。

表 4 高学年の問い

No.	言語項目	言語材料
1.	あいさつの表現 (1)	A: Hello, _____. B: Hello, _____.
2.	あいさつの表現 (2)	A: How are you? B: I'm fine, thank you. And you? A: I'm fine, too, thank you.
3.	天気 of 表現 *	A: How is the weather today? B: It is fine.
4.	名前の表現	A: What is your name? B: My name is Hiroyuki.
5.	誕生日の表現	A: When is your birthday? B: My birthday is January 13 th .
6.	住んでいるところの表現	A: Where do you live? B: I live in Itoigawa city.
7.	通学している学校の表現	A: Where do you go to school? B: I go to Nishiumi Elementary School.
8.	学年の表現	A: What grade are you in? B: I am in the sixth (fifth) grade.
9.	1日の授業 (何時間か) の表現	A: How many classes do you have on Wednesday? B: I have six classes.
10.	好きな教科 (授業) の表現	A: What subject(s) do you like? B: I like Japanese.
11.	将来の夢 (職業) の表現	A: What do you want to be when you grow up? B: I want to be a doctor.

*は、教師の評価のみ

表 5 中学年の問い

No.	言語項目	言語材料
1.	あいさつの表現 (1)	A: Hello, _____. B: Hello, _____.
2.	あいさつの表現 (2)	A: How are you? B: I'm fine, thank you. And you? A: I'm fine, too, thank you.
3.	天気 of 表現	A: How is the weather today? B: It is fine.
4.	色 of 表現	A: What color do you like? B: I like red.
5.	くだもの表現	A: What fruit(s) do you like? B: I like strawberries.
6.	リンゴは好きですかの表現 *	A: Do you like apples? B: Yes, I do. No, I don't.
7.	ゴルフは好きですかの表現 *	A: Do you like golf? B: Yes, I do. No, I don't.
8.	好きなスポーツの表現	A: What sport(s) do you like? B: I like baseball.
9.	テニスはできますか of 表現 *	A: Can you play tennis? B: Yes, I can. No, I can't.
10.	できるスポーツ of 表現	A: What sport(s) can you do? B: I can play soccer.

*は、教師の評価のみ

(2) 面接 (オーラルインタビュー) の仕方

- 児童一人ひとりに対して面接をする。ビデオでそれを撮影する。
- 面接をするインタビュアーは、筆者、及び学級担任である。
- その際、留意点のとおり実施する。
- 評定者としての Native Speaker of English が「内容の適切さ」「反応の速さ」の観点から評定する。¹⁾

e) 児童に対しての留意点

-
1. 1回目の質問で答えることができない場合、同じ質問を繰り返す。
 2. 同じ質問は、2回までとして、次に進む。
 3. できなければ、答を示してもよい。
-

f) 答えた内容の適切さの観点

-
1. 質問に対して十分適切に答えることができる。
 2. 一部答えることができる。
 3. 答えることができるが、質問の答えとして適切ではない。
 4. 聞き取れないことを伝える。
 5. 反応できない。
-

g) 反応の速さの観点

-
1. すぐに答えることができる。
 2. 少し考えてから答えることができる。
 3. 時間がかかるが答えることができる。
 4. 聞き取れないことを伝える。
 5. 反応できない。
-

ただし、「答えた内容の適切さ」と「反応の速さ」の評価の観点は、松川（1997）の指標を参考にした。

(3) 児童の自己評価例

9. 「将来の夢（職業）」が言える。

-
- () 言える
 () だいたい言える
 () どちらでもない
 () あまり言えない
 () 言えない
-

(4) 実施日：平成18年3月1日、及び3月9日、児童一人に対して5分間程度で実施した。

(5) 児童の参加者：高学年（6年生・5年生36名）、中学年（4年生・3年生33名）

(6) 処理の方法：内容の適切さ・反応の速さ、及び児童による自己評価との相関係数で処理した。

5. 結果と考察

下記のとおり、高学年と中学年の結果と考察を示す。

(1) 結果

1) 高学年

表6から表15の結果から、「内容の適切さ」と「反応の速さ」において非常に高い相関がある言語項目は、「通学している学校の表現」($r = 1.000, p < .01$)、及び「住んでいるところの表現」($r = .970, p < .01$)である。

高い相関がある言語項目は、「学年の表現」($r = .796, p < .01$)、「1日の授業の表現」($r = .778, p < .01$)、及び「将来の夢（職業）」の表現」($r = .747, p < .01$)である。かなりの相関がある言語項目は、「あいさつの表現（1）」($r = .669, p < .01$)、「天気」の表現」($r = .669, p < .01$)、「名前」の表現」($r = .448, p < .01$)、「誕生日」の表現」($r = .590, p < .01$)、及び「好きな教科（授業）」の表現」($r = .668, p < .01$)である。

「内容の適切さ」と「自己評価」においてかなり相関がある言語項目は、「通学している学校の表現」($r = .421, p < .05$)である。低い相関がある言語項目は、「誕生日」の表現」($r = .387, p < .05$)、「将来の夢（職業）」の表現」($r = .394, p < .01$)である。

「反応の速さ」と「自己評価」においてかなりの相関がある言語項目は、「誕生日」の表現」($r = .614, p < .01$)、「通学している学校の表現」($r = .421, p < .05$)である。

表6 あいさつの表現におけるPearsonの相関係数 (N=36)

	適切さ(1)	反応の速さ(1)	適切さ(2)	反応の速さ(2)	自己評価
適切さ(1)					
反応の速さ(1)	.669**				
適切さ(2)	.021	-.033			
反応の速さ(2)	.660**	.467**	.300		
自己評価	.026	.291	-.161	-.043	

* $p < .05$ ** $p < .01$

表7 天気の表現におけるPearsonの相関係数 (N=36)

	適切さ	反応の速さ
適切さ		
反応の速さ	.669**	

* $p < .05$ ** $p < .01$

表8 名前の表現におけるPearsonの相関係数 (N=36)

	適切さ	反応の速さ	自己評価
適切さ			
反応の速さ	.488**		

* $p < .05$ ** $p < .01$

表9 誕生日の表現におけるPearsonの相関係数 (N=36)

	適切さ	反応の速さ	自己評価
適切さ			
反応の速さ	.590**		
自己評価	.387*	.614**	

* $p < .05$ ** $p < .01$

表10 住んでいるところの表現におけるPearsonの相関係数 (N=36)

	適切さ	反応の速さ	自己評価
適切さ			
反応の速さ	.970**		
自己評価	-.060	.058	

* $p < .05$ ** $p < .01$

表11 通学している学校の表現におけるPearsonの相関係数 (N=36)

	適切さ	反応の速さ	自己評価
適切さ			
反応の速さ	1.000**		
自己評価	.421*	.421*	

* $p < .05$ ** $p < .01$

表12 学年の表現におけるPearsonの相関係数 (N=36)

	適切さ	反応の速さ	自己評価
適切さ			
反応の速さ	.796**		
自己評価	.127	.128	

* $p < .05$ ** $p < .01$

表13 1日の授業（何時間か）の表現におけるPearsonの相関係数（ $N=36$ ）

	適切さ	反応の速さ	自己評価
適切さ			
反応の速さ	.778**		
自己評価	.254	.308	

* $p < .05$ ** $p < .01$ 表14 好きな教科（授業）の表現におけるPearsonの相関係数（ $N=36$ ）

	適切さ	反応の速さ	自己評価
適切さ			
反応の速さ	.668**		
自己評価	-.026	-.071	

* $p < .05$ ** $p < .01$ 表15 将来の夢（職業）の表現におけるPearsonの相関係数（ $N=36$ ）

	適切さ	反応の速さ	自己評価
適切さ			
反応の速さ	.747**		
自己評価	.394*	.365*	

* $p < .05$ ** $p < .01$

2) 中学年

表16から表24の結果から、「答えた内容の適切さ」と「反応の速さ」において非常に高い相関がある言語項目は、「あいさつの表現（2）」（ $r = .911, p < .01$ ）, 「天気の表現」（ $r = .929, p < .01$ ）である。かなりの相関がある言語項目は、「あいさつの表現（1）」（ $r = .615, p < .01$ ）, 「色の表現」（ $r = .586, p < .01$ ）, 「くだもの表現」（ $r = .557, p < .01$ ）, 「りんごは好きですかの表現」（ $r = .675, p < .01$ ）, 及び「できるスポーツの表現」（ $r = .681, p < .01$ ）である。

「答えの内容の適切さ」と「自己評価」においてかなり相関がある言語項目は、「あいさつの表現（1）」（ $r = .550, p < .01$ ）, 「天気の表現」（ $r = .416, p < .05$ ）である。

「反応の速さ」と「自己評価」においてかなりの相関がある言語項目は、「あいさつの表現（1）」（ $r = .588, p < .01$ ）である。低い相関がある言語項目は、「天気の表現」（ $r = .355, p < .05$ ）である。

表16 あいさつの表現におけるPearsonの相関係数（ $N=33$ ）

	適切さ(1)	反応の速さ(1)	適切さ(2)	反応の速さ(2)	自己評価
適切さ(1)					
反応の速さ(1)	.615**				
適切さ(2)	.053	-.097			
反応の速さ(2)	.243	.135	.911**		
自己評価	.550**	.588**	-.113	.085	

* $p < .05$ ** $p < .01$ 表17 天気表現におけるPearsonの相関係数（ $N=33$ ）

	適切さ	反応の速さ	自己評価
適切さ			
反応の速さ	.929**		
自己評価	.416*	.355*	

* $p < .05$ ** $p < .01$

表18 色の表現におけるPearsonの相関係数 (N=33)

	適切さ	反応の速さ	自己評価
適切さ			
反応の速さ	.586**		
自己評価	-.075	.177	

* $p < .05$ ** $p < .01$

表19 くだものの表現におけるPearsonの相関係数 (N=33)

	適切さ	反応の速さ	自己評価
適切さ			
反応の速さ	.557**		
自己評価	-.070	-.078	

* $p < .05$ ** $p < .01$

表20 リンゴは好きですかの表現におけるPearsonの相関係数 (N=33)

	適切さ	反応の速さ
適切さ		
反応の速さ	.675**	

* $p < .05$ ** $p < .01$

表21 ゴルフは好きですかの表現におけるPearsonの相関係数 (N=33)

	適切さ	反応の速さ
適切さ		
反応の速さ	.000	

* $p < .05$ ** $p < .01$

表22 好きなスポーツの表現におけるPearsonの相関係数 (N=33)

	適切さ	反応の速さ	自己評価
適切さ			
反応の速さ	.000		
自己評価	-.111	.180	

* $p < .05$ ** $p < .01$

表23 テニスはできますかの表現におけるPearsonの相関係数 (N=33)

	適切さ	反応の速さ
適切さ		
反応の速さ	.049	

* $p < .05$ ** $p < .01$

表24 できるスポーツの表現におけるPearsonの相関係数 (N=33)

	適切さ	反応の速さ	自己評価
適切さ			
反応の速さ	.681**		
自己評価	-.087	.195	

* $p < .05$ ** $p < .01$

(2) 考察

教師の評定・評価の観点から、「内容の適切さ」と「反応の速さ」に関して相関はあるだろう。授業の固定化の中の「モデルの提示」でスキット等を使い、児童に本時のねらいを考えさせた。そして、繰り返し練習させながらね

らいとする言語項目を言えるようにさせた結果である。その際、「内容の適切さ」と「反応の速さ」を意識しながら指導をしていく必要があることを示唆している。また、言語項目の中には、教師の評価（「内容の適切さ」と「反応の速さ」）と児童の自己評価との相関がある言語項目もみられる。

児童の自己評価を分析してみると、「言える」及び「だいたい言える」という言語項目（言語材料）が多かった。授業の中で繰り返し練習との観点から考察すると、十分な時間をとらなかった言語項目や十分な繰り返し練習をしなかった言語項目の中には、「あまり言えない」、及び「言えない」と回答した児童もいた。児童が自信を持って、授業で取り扱う言語項目を「言える」ようにするには、多様な活動をとおして繰り返し練習をさせる必要があるであろう。そうすれば、児童が自信を持ってねらいとする言語項目を言えるようになるであろう。

6. 教育的示唆

児童は学習内容を話せるようになりたいという願望がある。児童に学習内容を話せるようにさせたいならば、「内容の速さ」と「反応の速さ」を意識しながら指導をするとよいであろう。その2つの観点をうまく絡めながら指導するには、指導方法を検討する必要がある。楽しく繰り返し活動をすれば、児童が学んだ英語を使って話すことができるようになる。それには、児童が自信を持てば、自分のことを自己表現するようになる。そして、外国語活動の「話すこと」の重要なことの一つは、児童に「自信を持たせること」である。

7. 課題

現行の学習指導要領の外国語活動では「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる」こととなっているが、「聞くこと」と「話すこと」の調査の結果との関係でも検討したい。

この「話すこと」の調査を実施したのは、「総合的な学習の時間」における英語活動時である。現行の外国語活動の「聞くこと」と「話すこと」に焦点をあてて、児童の2つの技能面に関する調査を実施したい。その調査結果を基にして、現行の外国語活動を実施する際に有益な情報にあるであろう。そうすれば、カリキュラムや指導の再検討を可能にすることができて、児童が自信を持って自己表現できるようになる。

本稿は、小学校英語教育学会（JES）第7回全国大会（徳島）で自由研究発表をしたものである（2007年8月18日）。

本稿に関しては、科学研究費補助金（課題番号19820481 基盤研究（C）「小・中連携を意識した小学校英語の実践的研究—カリキュラム編成に焦点をあてて—」（研究者代表：石濱博之）の補助を受けた。

注

- 1) スピーキング・テストの評定者は、アイヴァン・ブラウン（上越教育大学特任講師）である。

参考文献

- 石濱博之. (2004). 『『英語活動』を体験した児童の『聴解力』の伸びに関する事例研究』『小学校学校英語教育学会紀要』第4号, pp.9-15.
- 石濱博之・西田克裕. (2006). 「『英語活動』の効果—児童の『聴解力』の向上に関する事例研究」第6回小学校英語教育学会栃木大会口頭発表要綱, 平成18年7月30日.
- 石濱博之. (2007). 「小学校における35時間の『英語活動』が中学校1年生の聴解力に及ぼす効果」『中部地区英語教育学会紀要』第37号 pp.55-62.
- 石濱博之・藤田英志 (2008). 『「だれでもできる」「役立つ」「楽しい」英語活動—学級担任主体の英語活動の取り組み—』上越教育大学・糸魚川市立西海小学校報告書.
- 松川禮子. (1997). 『小学校に英語やってきた』, 東京: アプリコット.
- 松川禮子. (2004). 『明日の小学校英語教育を拓く』, 東京: アプリコット.

Appendix I

平成17年度糸魚川市立N小学校話題と言語材料

	低学年	中学年	高学年
4月	あいさつ Good morning. Good afternoon. Good evening. Good night. Good-bye. Hello, _____. Hi, _____.	あいさつ Good morning. Good afternoon. Good evening. Good night. Good-bye. See you next time. Hello, _____. Hi, _____. Hello. Hi. Good morning. I'm fine, thank you. And you? I'm fine, too, thank you.	出会いのあいさつ Hello. Hi. Good morning. I'm fine, thank you. And you? I'm fine, too, thank you. Hello, _____. Nice to meet you, (too). My name is _____.
5月	数をかぞえよう What is the number? It is one. 1~13	天気を聞いてみよう How is the weather today? It is fine. fine, cloudy, rainy, snowy, cold, hot, freezing, windy	どこの出身ですか Where are you from? I am from America. Japan, China, France, Australia, Great Britain, India, Russia, Germany, Brazil, Canada, Italy, Korea, Spain
6月	年齢をいってみよう How old are you? I am seven years old. I am eight years old.	曜日をいってみよう What day is it today? It is Sunday. Sunday, Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday, Saturday	糸魚川市に住んでいます 西海小学校に通っています Where do you live? I live in Itoigawa city. Where do you go to school? I go to Nishiumi Elementary School.
7月	身体を表現しよう What is this? It is a nose. eye, eyes, eyebrow, eyebrows, ear, ears, nose, mouth, chin, hair, cheek, lip, tongue	大きな数をいってみよう What is the number? It is one. 1~60	学年をいってみよう What grade are you in? I am in the fourth grade. first, second, third, fourth, fifth, sixth
9月	色をいってみよう What color is this? It is red. red, blue, yellow, green, pink, white, black, brown, purple, orange, gold, silver	時計をいってみよう What time is it? It is seven o'clock.	大きな数と序数をいってみよう What is the number? It is one. 1~60 first, second, third, fourth, fifth, sixth, 31 st
10月	果物をいってみよう What is this? It is an apple. banana, melon, peach, apple, orange, strawberry, cherry, pear, pineapple, watermelon, lemon	好きな果物をいってみよう What fruit(s) do you like? I like apples. bananas, melons, peaches, apples, oranges, strawberries, cherries, pears, pineapples, watermelons, lemons Do you like apples? Yes, I do. No, I don't.	日付を言ってみよう 誕生日をいってみよう What is the date today? It is October 1 st . When is your birthday? My birthday is January 13 th . January, February, March, April, May, June, July, August, September, October, November, December first~thirty-first

11月	動物をいってみよう What is this? It is a panda. koala, bear, rabbits, lion, cat, dog, monkey, elephant, panda, tiger, zebra	スポーツをいってみよう What sport is this? It is baseball. volleyball, skating, soccer, badminton, golf, skiing, table tennis, baseball, tennis, basketball, softball, swimming, dodge ball	時間割を見てみよう How many classes do you have on Monday? I have five classes on Monday. What are they? They are Japanese, social studies, science, math, and music.
12月	野菜をいってみよう What is this? It is a carrot. potato, tomato, onion, lettuce, cabbage, carrot, turnip, green pepper, corn, eggplant, Japanese radish	好きなスポーツは何ですか What sport(s) do you like? I like baseball. Do you like baseball? Yes, I do. No, I don't.	好きな教科は何ですか What subject(s) do you like? I like Japanese. Japanese, social studies, mathematics, science, music, arts & crafts, homemaking (home economics), P.E. (health & physical education), character copying, moral education
1月	乗り物をいってみよう(1) What is this? It is a bus. bus, train, car, etc.	テニスができますか Can you play tennis? Yes, I can. No, I can't.	将来の夢をいってみよう What do you want to be when you grow up? I want to be a teacher. architect, ballet dancer, barber, baseball player, carpenter, car racer, doctor, teacher, etc.
2月	乗り物をいってみよう(2) What is this? It is a bus. bus, train, car, etc.	どんなスポーツができますか What sports can you do? I can ski. I can play baseball.	自己紹介をしよう My name is Taro. I go to Nishiumi Elementary School. I am in the sixth grade. I live in Itoigawa. My birthday is January 2 nd . I like Japanese. I want to be a baseball player.
3月	まとめ	まとめ	まとめ

A Case Study on the Changes in Children's Speaking Ability in English Language Activities

ISHIHAMA Hiroyuki*

ABSTRACT

The purpose of this paper is to show the effects on children's speaking ability after teaching English to them in an elementary school in Itoigawa city. To begin with, we used an oral interview to investigate how children spoke the language items in a one-year activities plan. We also analyzed the data from the viewpoints of accuracy, fluency, and children's self-evaluation.

When children have confidence in speaking language items, they can speak English with a positive attitude. We need to teach language items to them in a repetitive manner.

* Humanities and Social Studies Education